

重点目標に沿った事例（小学校）

（１）小学校１年生の取組事例

I C Tスキル項目	（１）基本的な操作等 （ウ）文字入力
学習活動名	国語「新出漢字の学習」
学年	１年生
学習活動・I C T活用の概要	  新出漢字練習コンテンツは、市販の漢字ドリルに掲載されているQRコードをアプリ「QRコードリーダー」で個々に読み込ませて、立ち上げていく。 本コンテンツは、タッチペンでタブレット画面をなぞっていくのが基本だが、ただ文字をなぞって字形を整えればOKというのではない。書き順の正しさや始筆を始める点や向きも問われ、紙での反復学習ではできない学びの評価が即表示される点は、タブレットならではの学びといえる。 また発展問題として、書き順クイズがあり、正答・誤答の確認も即できるため、個々の進度に応じた学びができる。 紙に書く指導と平行して、漢字に対する児童の意欲を向上させたり、補充学習を充実させたりする効果が見られている。 低学年児童に対する心配として「タブレットを落としたり、壊したりしないか。」「パスワード入力や管理ができるか。」「アプリケーションを適切に使えるか。」等を想定していたが、学期が進むにつれて、どの子も活用スキルが向上している。

- ・デジタルドリル教材の書き取りでは、書き順やとめやはらいなど正しく書けないと次に進めないという仕組みになっているので、細かな部分まで正確に定着させることができる。
- ・デジタルドリル教材を活用することで個に応じた学びを実現している。
- ・紙媒体のドリルで反復学習に取組、デジタルドリルで確認するという使い方は、それぞれの良さを生かした取組である。

(2) 小学校 2 年生の取組事例

I C Tスキル項目	(1) 基本的な操作等 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	「ぐんぐんそだて わたしの野さい」(生活科)
学年	第 2 学年
学習活動・ I C T活用の概要	第 1 次「野さいをそだてよう」 自分が育てる野菜を決め，苗を植える。タブレットカメラで写真を撮る。活動を振り返り，野菜日記を書く。 第 2 次「野さいのせわをしよう」 野菜の様子を観察して写真に撮った後，必要に応じた世話をする(資料 1)。写真に撮るだけでなく五感も使って観察させる。教室に戻り，においや触感などの気付いたことをマークアップ機能で写真に直接メモさせる。 その後，成長や世話の様子を野菜日記に書く(資料 2)。 資料 1 (写真を撮る様子) 資料 2 (野菜日記を書く様子) 第 3 次「野さいをしゅうかくしよう」 休み時間等を使い，熟した野菜を収穫し，写真で記録する。収穫した時や食べた時のことを振り返り，気付いたことを野菜日記に書く。 第 4 次「野さいのようすをつたえ合おう」 野菜作りでお世話になった人への報告とお礼の意味を込めて，活動の様子をまとめた「野菜新聞」や「野菜絵本」を作り読んでもらう。書きためてきた野菜日記や写真を使い，成長の様子がよくわかるようにする。 資料 3 (野菜新聞)

- ・ 目的に応じて近接して撮るなど用途に応じた撮影を意識させ，伝えたい事柄に応じて写真を選び，書き込みをして表現に使えるようになった。
- ・ 必要な写真を撮るという活動が，フォルダ整理や必要な資料選択など今後の新たなスキル修得につながっている。

(3) 小学校 3 年生の取組事例

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	理科「植物の一生」
学年	3 年
学習活動・ICT活用の概要	ホウセンカ，マリーゴールド，ひまわりを学級園で育て，実ができた様子をタブレットを使って撮影した。実の様子は複雑で，絵に表すのが苦手な児童にとっては描き表しにくい。しかし，撮影する活動にすると，絵が苦手な児童も興味を持って活動に参加し，それぞれの植物の特徴的な部分を捉えるようアングルを工夫する姿が見られた。観察記録としては写真を見てゆっくりと絵に描くことができ，継続的に撮影することで植物が育つ様子をまとめやすくなったと思った。 3 年生では，「(1)基本的な操作等」のステップ1～ステップ2，「(3)情報モラル・情報セキュリティ」のステップ1の習得へと進んでいる。コンピュータやデジタルカメラなどを使うことが効果的な場面において自分のタブレットを使用することで，児童の意欲や興味が広がったように感じる。

- ・植物の特徴的な部分を捉えるようアングルを工夫して撮影した写真を模写することで，学びを深めている。
- ・コンピュータやデジタルカメラなどを効果的に使うことは，児童の学習意欲を高め，興味を広げている。
- ・毎日少しでもタブレットにさわる時間や活動を取り入れ，教師・児童ともにスキルアップを図っている。

(4) 小学校 4 年生の取組事例

I C Tスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	総合「徳島県観光ツアーのリーフレットを作ろう！」
学年	4 年
学習活動・I C T活用の概要	徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」の電子パンフレットを用いて、徳島県の観光名所や郷土の文化、食べ物について調べる。 気になったものについて、ホームページを検索したり、図書館で借りた本を読んだりして調べる。 リーフレットに掲載するための画像をホームページからダウンロードする。インターネット上の画像には権利があること、個人使用でない場合は、法律に触れるということを伝える。 リーフレットに掲載するための顔写真をペアで撮り合う。 AirDrop機能を活用し、撮影した写真を本人に送る。 Metamoji Classroomを活用し、ダウンロードした画像および顔写真のサイズを調節しながらワークシートに貼り付ける。 プリントアウトし、調べた観光名所や文化、食べ物についての紹介文を書き込む。 (効果) ・学習の意欲付けに役立っている。 ・文字を書くことを苦手とする児童が、端末を使用することで、完成度の高い作品を作ることができ、達成感を得ることができる。 ・発声がしにくい児童が、端末の文字入力機能を活用することで、コミュニケーションがとりやすくなった。



- ・インターネット，図書それぞれで調べ学習を実施，自分が必要とする情報を選択することができる。
- ・活動にあわせて著作権についても指導できている。
- ・写真の配布や加工などタブレット機能を効果的に活用している。
- ・発表しづらい児童も意見を共有することでコミュニケーションを図れるようになっている。

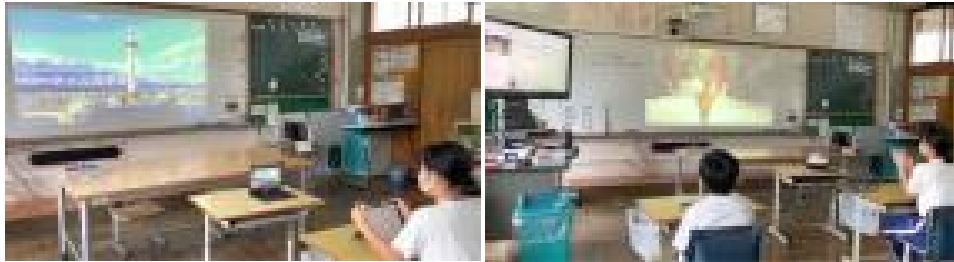
(5) 小学校 5 年生の取組事例

ICTスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (イ) プレゼンテーション (ウ) 情報収集力
学習活動名	社会「自動車の生産にはげむ人々」
学年	5 年
学習活動・ICT活用の概要	自動車の生産について学んだ後，単元の最後に「自分がデザインした自動車を発表しよう」という学習課題を設定した。児童は，学んできたことをもう一度動画（NHK for School等）や資料などで見返して確認し，誰のためにどんな自動車をデザインするか考えた。 自分がデザインした自動車をロイロノートでスライドをつくるようにし，思考ツールを使って考えを整理しながら進めるようにした。図や写真，文字の大きさ・色，手書きなど，様々な工夫をしながらつくり，作成したスライドをもとにした発表会を参観日に実施した。



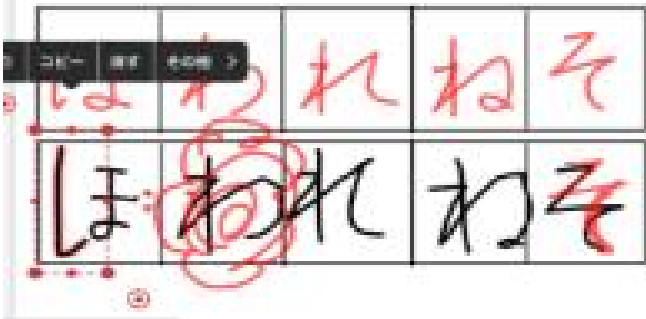
- ・ 思考ツールを使って思考の流れを図式化することで，自分の考えを整理しながら学習を進めることができている。
- ・ 図や写真，文字の大きさ・色，手書きなど，様々な工夫をしながら発表資料作りができている。
- ・ 動画や資料を利用して学習の振り返りができている。

(6) 小学校 6 年生の取組事例

ICTスキル項目	(1) 問題解決・探究における情報活用 (イ) プレゼンテーション
学習活動名	総合「バーチャル修学旅行」
学年	6 年
学習活動・ICT 活用の概要	 修学旅行は子ども達の小学校生活一番の楽しみであり、我が国の歴史を直接体験する意味でも大切な行事である。しかし、昨今のコロナ禍の状況から京阪神への修学旅行を実施することができない。だが、今まで行ってきた事前学習や修学旅行後の事後学習まで実施しないと、歴史学習の深まりが浅くなってしまう。 そこで、バーチャル修学旅行を企画し、修学旅行で見学をするコースをそれぞれの児童が担当し、調べ、まとめ、発表を行った。資料は、小中学校9年間のスタディログに記録している。 海陽町はGIGAスクール構想が始まる4年前から、擬似的な1人1台端末を実現し、全国的な流れに先駆けてICTを活用した教育に取り組んできた。このため、子ども達や海陽町の教員のICTスキルは高く、スムーズに1人1台端末を効果的に生かすことができている。端末は、クラウドを中心に設定しており、1人1IDの実現や、学校を超えた交流学习、AIドリルを利用した自習や家庭学習に日常的に取り組んでいる。

- ・ 修学旅行で見学をするコースをそれぞれの児童が担当し、調べる、まとめる、発表することで歴史学習を深めている。
- ・ 小中9年間の学びのポートフォリオを作成している。
- ・ 先進的な事例創出に励み、児童・教師のスキルレベルが高い。

(7) 小学校特別支援学級の取組事例

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作
学習活動名	国語（生単） 「正しい形で文字を書こう」
学年	特別支援学級
学習活動・ICT活用の概要	文字の形崩れが激しい児童に正しい形を意識させるためのトレーニングにMetaMoj iを使用している。マスだけの状態で配布し，学習中に気になった文字を上段に朱書きし，その下に練習する。 ノート上では手本と自分の字を見比べても形崩れに気付きにくい，MetaMoj i上だと，自分の字の上に手本を重ねて比べたり，直したいパーツだけを操作し，大きさや位置の変更をすることで，どこを直せばよいのか気づき正しい形で書き直すことができる。   (成果) ・アプリを立ち上げ，指定した配布教材を開くことができるようになった。 ・タッチペンを適度な筆圧でスムーズに使えるようになった。 ・文字を消したり，動かしたい物だけを選択して移動・大きさの変更ができるようになった。

- ・児童の特性に応じてタブレット機能を効果的に活用することでねらいをしっかり達成できている。
- ・タッチペンやアプリケーション操作をしっかり習得することができている。
- ・指導者がより良い使い方を模索している。